



鹿行教育事務所だより 第10号

令和8年1月13日(火)



2次元コードから鹿行教育事務所のホームページが見られます

電話 0291-33-6138

E-mail rokyo@pref.ibaraki.lg.jp



「つなぐ」(令和7年度鹿行教育事務所キーワード)

鹿行教育事務所 所長 植田敏浩

令和8年(2026年)がスタートいたしました。教職員の皆様には、日頃から子どもたち一人一人に心を寄せ、日々の教育活動に真摯に取り組んでいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、新しい年を迎え、今年はどんな一年にしたいか、それぞれ思いを巡らせておられることと思います。私からは、今年度の鹿行教育事務所のキーワードとして大切にしていた「つなぐ」という言葉についてお伝えしたいと思います。

学校は、人と人が出会い、関わり合いながら育っていく場所です。子どもたちは、友達との関わりの中で学び、教職員との関係の中で安心し、家庭や地域とのつながりの中で成長していきます。その一つ一つを、私たち教職員がそっと支え、「つないでいる」のだと思います。忙しい日々の中では、つい目の前のことで精一杯になってしまうこともあります。そんなときこそ、隣の教室の先生に声をかけること、学年や校務分掌を越えて思いを共有することが、子どもたちの安心につながり、私たち自身の支えにもなります。また、これまで積み重ねてこられた実践や経験は、学校の大切な財産です。うまくいったことだけでなく、悩んだことや迷ったことも含めて語り合い、次の世代へと「つないでいく」ことが、学校の力を育てていくのだと思います。

鹿行教育事務所といたしましても、教職員の皆様が安心して力を発揮できるよう、人と人、学校と学校、学校と行政をつなぐ存在でありたいと考えています。今年度残り3ヶ月が、子どもたちにとっても、教職員の皆様にとっても、「誰かとつながっていることを感じられる期間」となるよう、尽力していきたいと考えております。

結びに、皆様のご健康と各学校のさらなる充実、そして、子どもたちの健やかな成長を祈念し、新年のごあいさついたします。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



霞ヶ浦からの初富士山

「学力向上プラン」のまとめ【検証・評価】【改善】をお願いします

<https://youtu.be/OrTBSbMxi2o>

年度当初に作成した学力向上プランのまとめの時期になりました。

学力向上プランは、「学力向上推進プロジェクト事業の一環として、各種学力調査の結果等の積極的なデータ利活用に基づくRPDCAサイクルによる教員の授業づくりに生かしていくことにより、児童生徒の学力の向上に資する」ことを目的としています。(令和7年度 学力向上推進プロジェクト事業に係る学力向上プラン実施要項より)

昨年度までの「学校改善プラン」との大きな違いは、「全国学力・学習状況調査」や「県学力診断のためのテスト」の結果等のデータ利活用に基づいて、年度内に新たな手立てを講じ、検証・評価をするという点です。現状では、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた手立て及びその検証・評価までの記載がされているかと思いますが、【追加の手立て】として、学校の実態に応じてデータ収集及び利活用を通して、プランを順次更新されていることと思います。

【検証・評価】の欄には、指標となる数値だけでなく、その数値をどう評価するか、学校としての価値づけの記述をお願いいたします。その際、ぜひ校内研修の一環として、1年間の研修の振り返りを「みんなで」行い、【検証・評価】や、最下段の「Action【改善】」の記述に反映させていただければと思います。教務主任だけでなく、担任や研究主任、管理職等、立場により見え方が違います。これを生かすことで、結果を多角的に検証するとともに、検証結果や意見を共有して実効性のあるものにしていくことができます。年度当初に配信した動画(右上 URL または2次元コードから)も改めてご参照ください。



左の枠は、各種調査実施後に順次記載します。

次年度に向けた改善の方向性(校内研修体制、授業研究のもち方など)についての記載をお願いします。

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果をふまえた手立て	(月 日)
令和7年度県学力診断のためのテストの結果をふまえた手立て	(月 日)
【追加の手立て】	
Action【改善】	

右の枠について、結果の数値と価値づけの記載をお願いします。